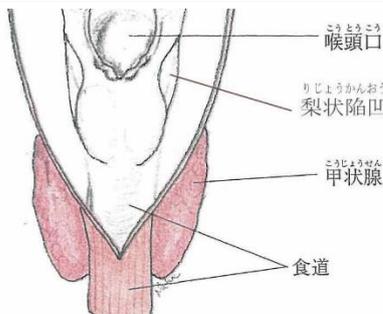
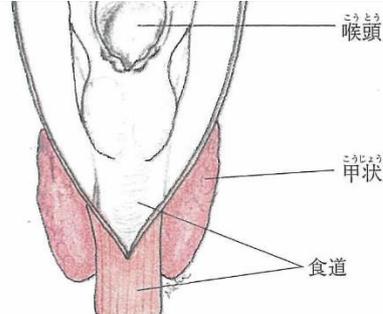
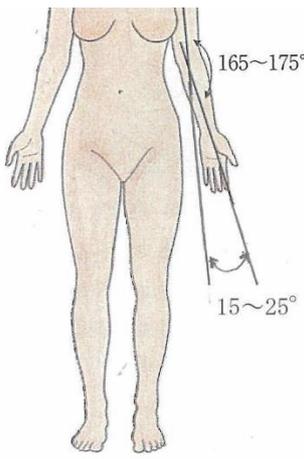
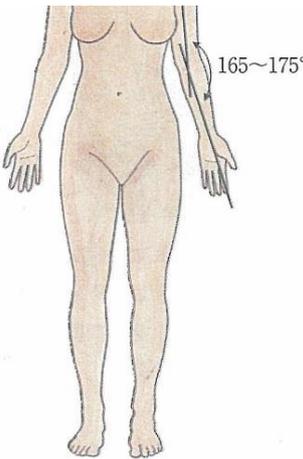
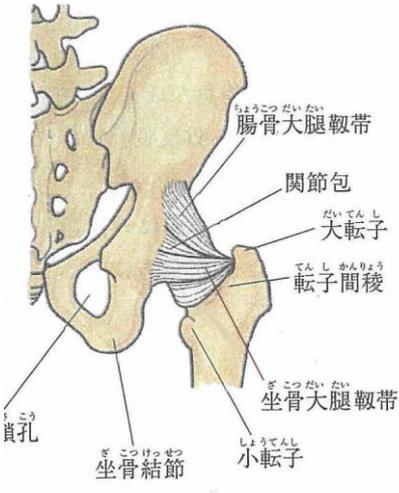
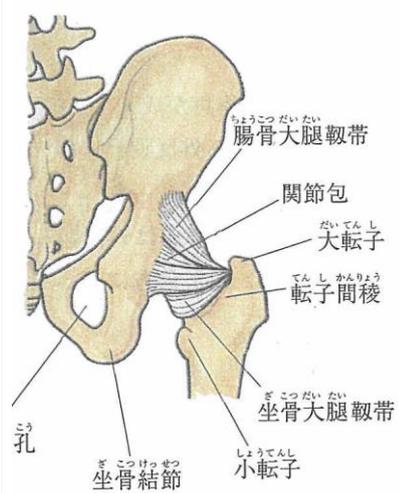
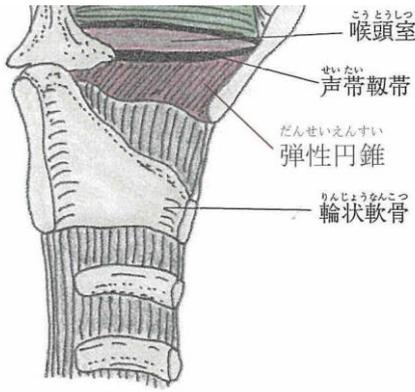
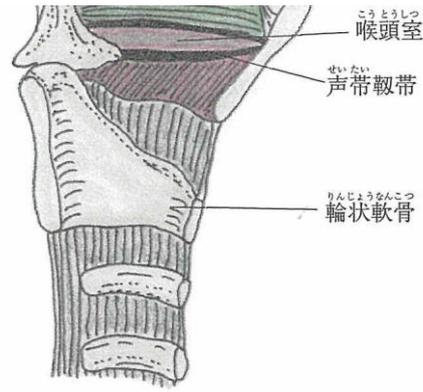
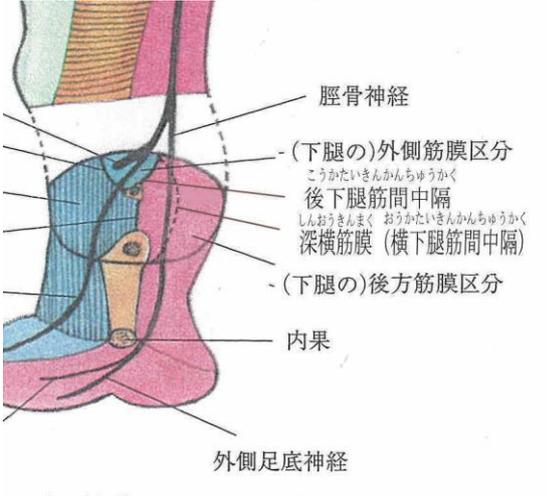
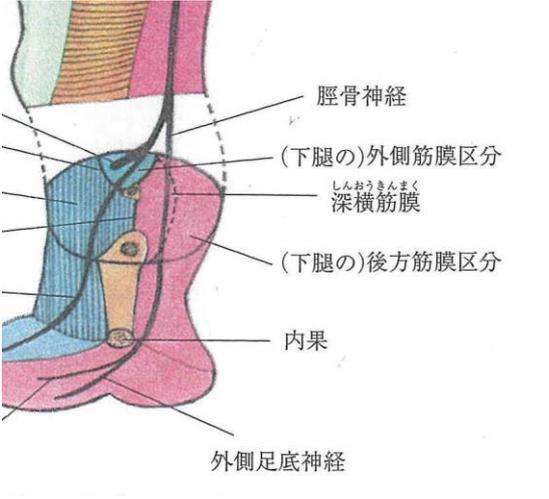
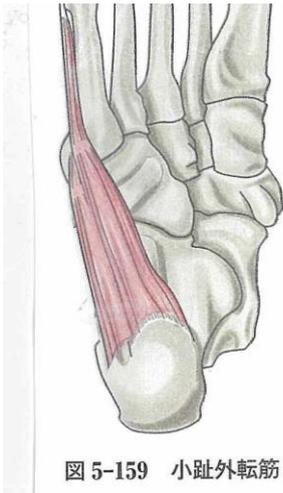
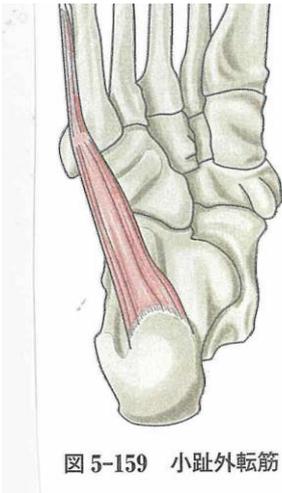
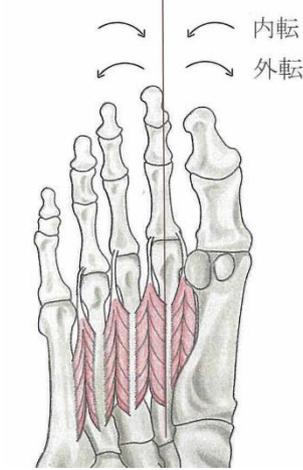
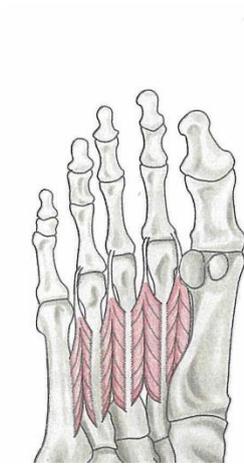
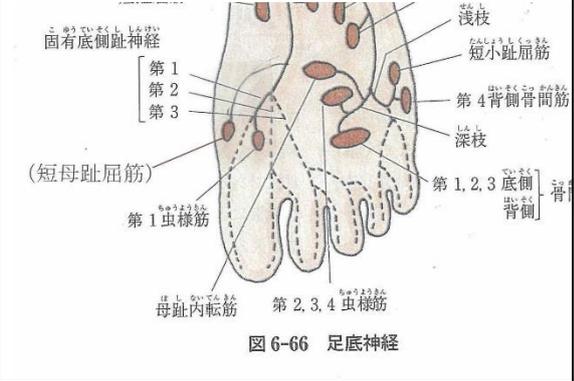
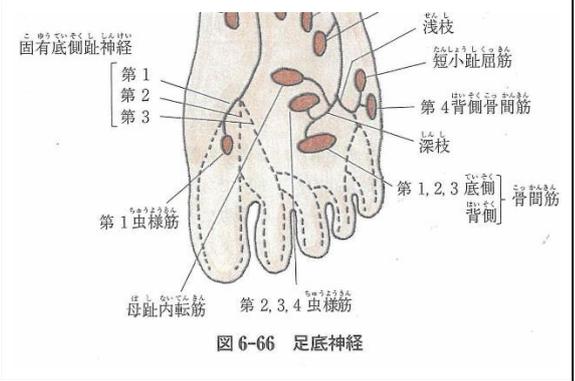


	正	誤
p. 40 図 2-30 キャプション	滑膜性連結（関節）の一般構造	骨膜性連結（関節）の一般構造
p. 44 L ↓1 行	一致していないため，その運動がラセン状になる	直交していないため，その運動がラセン状になる
p. 61 図 2-57 図中 左上枠内	肺動脈弁	肺静脈弁
p. 67 L ↓2 行	布するほか，中心枝は中脳，視床および第 3 脳室脈絡叢にも分布している。	布するほか，中心枝は視床にも分布している。
p. 68 図 2-70 図中右 ↑3 行	^{ひだり} 左 総頸動脈	^{みぎ} 右 総頸動脈
p. 86 図 2-91 梨状陥凹を追加	 <p>図 2-91 咽頭と喉頭口</p>	 <p>図 2-91 咽頭と喉頭口</p>
p. 89 L ↑13 行	域がある。ただし，左肺ではいくつかの区域が融合していることが多い。	域がある。
p. 117 R ↓8-9 行	なる。後葉ホルモンは視床下部の視索上核でバソプレシンが，室傍核でオキシトシンが，それぞれの核にある神経細胞で作られる。	なる。後葉ホルモンは視床下部の視索上核および室傍核にある神経細胞で作られる。
p. 123 ↑9 行	にも見られる。圧と振動の受容器である。	にも見られる。圧受容器である。
p. 123 ↑7 行	ルフィニ小体 皮下組織にも見られる。触圧覚の受容器と考えられている。	ルフィニ小体 皮下組織にも見られる。膠原線維に接着しており，腱器官（p. 54 を参照）と似た働きを持つと考えられている。
p. 123 ↑1 行	み，温度覚と触覚を感受する。特に毛包の周囲に多い。	みや温度覚を感受する。特に毛包の周囲に多い。
p. 129 図 2-151 キャプション	眼底（右眼）	眼底（左眼）

p. 156 図 3-31 キャプション	鎖骨 (右鎖骨：下面)	鎖骨
p. 157 図 3-32 キャプション	肩甲骨 (左：左肩甲骨前面，右：左肩甲骨後面)	肩甲骨 (左：前面，右：後面)
p. 197 図 4-34 (右内側面) ↑ 3 行	後部	中部
p. 198 図 4-36 運搬角を追加	 <p>図 4-36 運搬角</p>	 <p>図 4-36 運搬角</p>
p. 198 L ↓ 6 行	くる (図 4-36) . 上腕の長軸と前腕中央部を通る軸とのなす角 (15~25°) を運搬角とすることもある.	くる (図 4-36) .
p. 207 図 4-48 坐骨大腿靭帯の 引き出し線を正 す		
p. 210 L ↓ 3 行	骨上面の内側顆間結節に付着. 内側側副靭帯	骨上面の外側顆間結節に付着. 内側側副靭帯
p. 217 R ↓ 1 行	関節) である. 足の「内がえし」と「外がえし」	関節) である. 足の「内がえし」と「内がえし」
p. 225 図 5-1 下 2 か所	かしんかせいきん 下唇下制筋	こうしんかせいきん 下唇下制筋

p. 231 R ↑2行 と3行の間に追加	【口蓋咽頭括約筋】軟口蓋から起こり，上咽頭収縮筋の内面を輪状に走行する筋束が見られる．嚥下や発語のときに口腔と鼻腔を隔てる．	
p. 233 図5-10 最上段	よくとつかがくほうせん 翼突下顎縫線	けいとつかがくほうせん 茎突下顎縫線
p. 235 R ↑7行 と8行の間に追加	弾性円錐 輪状軟骨と声帯靭帯の間に張る膜	
p. 238 図5-16 弾性円錐を追加	 <p>図5-16 喉頭の膜と靭帯 (2)</p>	 <p>図5-16 喉頭の膜と靭帯 (2)</p>
p. 242 図5-23 右最上段	けいとつひんとうきん 茎突咽頭筋	けいとつぜのこつきん 茎突舌骨筋
p. 242 図5-23 図説明追加	(顎二頭筋および顎舌骨筋ははずしてある)	
p. 252 R ↓8行	11対ある．下位の肋骨より起こり，上位の肋骨	11対ある．上位の肋骨より起こり，下位の肋骨
p. 256 図5-42 左最上段	こうけいきん 広頸筋	こうけいきん 広頸筋
p. 268 ↓8行	【停止】上腕骨の小結節稜（広背筋の停止部よりや	【停止】上腕の小結節稜（広背筋の停止部よりや
p. 279 L ↓7行	【作用】手関節伸展（背屈）と外転（橈屈）	【作用】手関節伸展と外転
p. 279 R ↓10行	【作用】手関節伸展（背屈）と外転（橈屈）	【作用】手関節伸展（背筋）と外転（橈側外転）
p. 282 L ↓10行	【作用】手関節の伸展（背屈）と内転（尺屈）	【作用】手関節の伸展と内転
p. 285 図5-94 左最下段	長母指外転筋腱	長母指伸筋腱

<p>p. 299 図 5-119</p>		
<p>p. 308 L ↓ 3 行</p>	<p>は腓骨の外側で前下腿筋間中隔と後下腿筋間中隔の間に位</p>	<p>は腓骨の外側で前筋間中隔と後筋間中隔の間に位</p>
<p>p. 317 R ↓ 7 行</p>	<p>【停止】 第 5 趾の基節骨底 (外側) と第 5 中足骨底 (外側)</p>	<p>【停止】 第 5 趾の基節骨底 (外側)</p>
<p>p. 317 図 5-159</p> <p>筋の部分を追加</p>	 <p>図 5-159 小趾外転筋</p>	 <p>図 5-159 小趾外転筋</p>
<p>p. 320 図 5-167</p> <p>内転, 外転を追加</p>		
<p>p. 331 図 6-6</p> <p>図中の枠内</p>	<p>T: 胸神経から</p>	<p>T: 脳神経から</p>

p. 339 図 6-24 図説明	左：正常. 右：バビンスキー陽性	左：バビンスキー陽性. 右：正常
p. 347 図 6-37 右最上段	ないそくしつじょうたい 内側膝状体	がいそくしつじょうたい 外側膝状体
p. 350 L ↓ 2 行	つて, 原小脳 (前庭小脳), 古 (旧) 小脳 (脊髓小脳),	つて, 原小脳 (前庭小脳), 古小脳 (脊髓小脳),
p. 356 図 6-49 最下段とその上	がいそくそくてい 外側足底神経 (L4, 5, S1) ないそくそくてい 内側足底神経 (L4, 5, S1, 2)	がいそくそくてい 外側足底神経 (S1, 2) ないそくそくてい 内側足底神経 (S1, 2)
p. 365 図 6-63 最下段とその上	けいこつ 脛骨神経 (L4, 5, S1~3) そうひこつ 総腓骨神経 (L4, 5, S1, 2)	けいこつ 脛骨神経 (S2~4) そうひこつ 総腓骨神経 (S2~4)
p. 367 図 6-66 短母趾屈筋を追加	 <p>図 6-66 足底神経</p>	 <p>図 6-66 足底神経</p>
p. 372 図 6-72 ↑ 3 行	きょう 頰神経 をトル	
p. 375 図 6-75 右 ↓ 2 行	ないそくしつじょうたい 内側膝状体	ないそくしつじょうたい 内側膝状体
p. 376 L ↓ 2 行	③運動線維は舌咽神経運動核から出て, 茎突咽頭筋に分布する.	③運動線維は茎突咽頭筋に分布する.
p. 381 三叉神経 第1枝 感覚	・前頭部や頭頂部の皮膚	・前頭葉や頭頂部の皮膚
p. 386 ↑ 4 行か ら 1 行	速いもの (Aδ線維) と遅いもの (C線維) がある. 最初にAδ線維により伝えられる痛みは鋭く強いがすぐに消失する. 続いてずきずきと持続する痛みがC線維によって伝達される.	速いもの (C線維) と遅いもの (δ線維) がある. 最初にC線維により伝えられる痛みは鋭く強いがすぐに消失する. 続いてずきずきと持続する痛みがδ線維によって伝達される.
p. 389 ↑ 1 行	経路をとるが, 脊髓へは後根を通過して入り, 脊髓視床路から視床を通り. 大脳皮質あるいは視床下部に行く. 一部	経路をとるが, 脊髓へは後根を通過して入る. 一部
索引に 追加	キ 疑核 380 コ 口蓋咽頭括約筋 231	

後根 352 後根神経節 352 セ 脊髄神経節 352 前根 352 タ 弾性円錐 235, 238 ヒ 皮質橋小脳路 349 披裂喉頭蓋筋 238 リ 梨状陥凹 86	
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--